

## ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)

問題 109 専門職化に関する次の記述のうち、グリーンウッド(Greenwood, E.)が述べたものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 体系的な理論、権威、社会的承認、倫理綱領、専門職文化の5つの属性を示した。
- 2 公衆の福祉という目的、理論と技術、教育と訓練、テストによる能力証明、専門職団体の組織化、倫理綱領の6つの属性を示した。
- 3 専門職の目標、知識、及び技術についての認識を示した。
- 4 専門職の成熟度として、4つの発達段階を示した。
- 5 他の専門職と比較することによって「準専門職」という概念を確立した。

問題 110 認定社会福祉士に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 地域や外部機関との対応窓口、他職種との連携よりも、所属機関の機能に応じた社会福祉専門職としての高度な支援を行うことが求められる。
- 2 地域共生社会の実現に向けて求められるより高度な知識や技術等は、認定社会福祉士制度などを通して、継続して学ぶことが望まれる。
- 3 スーパービジョンの実施にあたっては、スーパーバイザーとスーパーバイジーの両者が、社会福祉士の倫理綱領及び行動規範を遵守しなければならないと定められている。
- 4 認定社会福祉士を取得するには、社会福祉士として20年以上の相談援助実務経験があることが要件とされている。
- 5 社会の変化とニーズの多様化・複雑化に対応するため、10年に一度の更新が求められる。

問題 111 福祉職の任用または委嘱に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 社会福祉主事は、社会福祉法に規定されている。
- 2 児童福祉司は、「児童虐待防止法」に規定されている。
- 3 身体障害者福祉司は、障害者基本法に規定されている。
- 4 知的障害者福祉司は、「障害者総合支援法」に規定されている。
- 5 母子・父子自立支援員は、児童福祉法に規定されている。

(注) 1 「児童虐待防止法」とは、「児童虐待の防止等に関する法律」のことである。

- 2 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

問題 112 「パークレイ報告」の内容として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 年齢やカテゴリー別の援助ではなく、家族全体を視野に入れた、総合的なアセスメントに基づく家族ソーシャルワークの実施を強調した。
- 2 地方自治体の議会にソーシャルサービス委員会を設置することが必要であると指摘した。
- 3 ソーシャルワーカーの任務として、それぞれが責任を持つ地理的範囲やクライアントのためのネットワークを見いだすとともに、必要があれば作り出すことに関心を持たなければならないとされた。
- 4 地域ケア計画を作成するにあたり、ケースマネジメントの技能を応用し、明確な財源システムを目指すことが期待された。
- 5 福祉サービスと保健医療改革を一体的に法定化し、継ぎ目のないサービスの提供を目標とした。

(注) 「パークレイ報告」とは、1982年の「Social Workers : Their Role and Tasks」のことである。

問題 113 事例を読んで、A市社会福祉協議会がソーシャルワーク実践の対象としたシステムとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

A市社会福祉協議会では、市内の視覚障害者から、行政機関が発信する生活や災害に関する情報が十分に届いていないため困っているという相談が相次いだ。こうした中、A市社会福祉協議会は行政機関と視覚障害者をつなぐ情報伝達経路が不十分であり、その改善が必要であることをA市に要望した。それを受け、A市は視覚障害者への情報提供支援として、点字や音声による情報提供や広報を開始し、情報が広く行き届くようになった。

- 1 ミクロシステムのみ
- 2 メゾシステムのみ
- 3 マクロシステムのみ
- 4 ミクロシステムとメゾシステム
- 5 ミクロシステムとマクロシステム

問題 114 事例を読んで、A医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)のBさんへのアドボカシーを意図した最初の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

脳卒中で4か月入院しているBさん(83歳)は、現在は本人の意思を確認することが困難である。看取りの場を検討するにあたり、妻は可能な限り一緒に過ごしたため、自宅退院を希望している。しかし、医師や看護師は、心臓に持病を持つ妻の自宅での介護は大変ではないかと妻に伝えた。その後、妻は、看取りの場について相談するために、医療相談室に来室した。Aは、Bさんが病気で入院する前に、看取りの場についてBさんと妻で話し合ったことがあるという話を聞いていた。

- 1 妻に対して、自宅退院に向けて利用可能な介護サービスについて説明する。
- 2 医師や看護師が心配する介護負担と妻の病状について、妻の考えを確認する。
- 3 妻の希望は自宅退院であることを、Aから医師と看護師に再度伝える。
- 4 妻に対して、Bさんはどこで最期を迎えたいと言っておられましたかと尋ねる。
- 5 妻に対して、看取りの場としての緩和ケア病棟の機能について説明する。